



まさかず かくま正一通信 (No.23)

ごあいさつ



皆様こんにちは。いつも温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。

前回の通信（No.22）発行から約半年が経過いたしました。この間、私は、県議会での代表質問、教育警務委員会で様々な教育課題等についての質問、並行在来線問題等の新川地域の諸課題に関する取組み、また医療・福祉や農林水産分野に関する取組み等、多くの活動をしてまいりました。この通信（No.23）で、それらの報告をさせていただきます。

さて、日本は、T P P 交渉、社会保障制度改革、国土強靱化、人材育成等重要課題に直面しております。また、安倍首相が来年4月から消費税8%の引上げに踏み切る中、低所得者対策と中小企業対策を柱とする緊急経済対策が極めて重要となります。これらは、いずれも富山県民の生活に関連する課題であります。私は、これからも、ふるさとに立脚し広い視点を持って、しっかりと活動・発言・提言してまいります。

何卒、皆様のご指導と叱咤激励を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成25年10月

鹿熊 正一

『かくま正一通信（No.22）』以後の私の活動の一端を報告いたします。
皆様からご意見やご提言をお寄せ頂ければ幸いです。

本会議で代表質問

（6月13日）自民党の代表質問に立った。主な質問項目とその趣旨は、次の通りである。

1. 北陸新幹線の福井県敦賀から西のルート決定に向けての取組み方針

【質問の趣旨】このルートが決まらない限り、北陸新幹線の大阪までの開業が平成47年度の北海道新幹線・札幌開業の後になってしまう。これでは、北陸新幹線はいつになっても、東海道新幹線の代替補完機能を果たせないことになる。

2. 並行在来線の利便性向上についての取組み方針

【質問の趣旨】朝夕の快速列車を含めた運行本数の確保や黒部駅止まりを泊駅まで延伸する事は、沿線住民の切なる願



い。このような思いに沿ってこそ、マイレール意識が生まれる。貨物調整金の減額を避けるために、住民の利便性を犠牲にしてはいけない。

3. アベノミクスの成長戦略を本県経済を伸ばす追い風にする方針並びに円安等の影響を受ける県内中小企業対策についての方針

【質問の趣旨】安倍政権の経済対策を受けて、県としてもしっかりと取り組んで頂きたい。

4. 大型公共施設建設の財源確保と計画的整備についての方針

【質問の趣旨】テクノホールの拡張、県立近代美術館の移転新築、県警中央署・北署・南署の再編整備は、北陸新幹線開業を見据え、都市間競争に勝ち、また治安強化等のために必要なことは理解するが、厳しい県財政の中、どのように財源を確保し計画的に整備を進めるのか。

5. 教師の多忙化の実態認識と教師の指導力向上についての取組み方針

【質問の趣旨】教師の多忙化が教育の質に影響している実態をきちんと認識し、その軽減を図ることが大事、また、教師の指導力向上のためには、県総合教育センターの機能充実や2、3年次研修等若手教員の研修制度の導入、また理科、音楽等の専科教員の配置拡充が必要。

その他、20問余り質問した。質問及び答弁の詳細は、富山県議会のHPをご覧ください。

教育警務委員会で質問

質問項目とそのポイントを記す。

〔6月5日〕

- ①教員の体罰について

【質問のポイント】

約1万人の教員の内、49人(0.5%)が体罰をしたとの調査結果(H24年度)が公表。その中には、複数回、体罰をした教員もいる。これは「再犯」ではないか。私の意見は、体罰は、指導力欠如の最たるもの、当該教員を徹底的に指導し、どうしてもダメなら教育界から退いてもらう

しかない、という意見。処分より指導、検討委員会での検討より指導こそ大事だ。

- ②教育委員会制度の改革について

【質問のポイント】

教育委員会のあり方として、委員選任における専門性の重視など見直すべき点はある。しかし、政府の教育再生実行会議が言うように、首長が教育長を任命し、教育長を首長の指揮監督下に置くという、改革提言には反対だ。首長と教育との間には、制度的に一線を画すべきだ。その上で、首長が教育委員会と連携し、その識見に基づき、人づくり政策を実行することは大いに結構なことと考える。

〔6月26日〕

- ①平成26年度教員採用試験の倍率が、平成3年の統計開始以降、初めて4倍を下回った事について

- ・平成14年度は12.86倍であり、倍率の低下が著しい。この要因をどう分析しているか。
- ・倍率の低下は、教員の質の低下につながることを懸念する声もあるようだが、どう考えているか。
- ・志願者が増えるよう、教員の仕事の魅力をどのように高めていく考えか。

【質問のポイント】

私は、倍率の低さが教員の質の低下に直接つながるとは思わない。しかし、年々志願者が減り、倍率が下がると、いい人材が集まらないことが心配される。先生の仕事の魅力をどう高めるかが、これからの大きな課題だ。

- ②いじめ防止対策推進法が6月に成立した事を受けて、県の対応方針を数点質した。

【質問のポイント】

いじめ発生の現状は、依然として多い(平成24年4月から7月の間に、小学校で162件、中学校で158件、高校で23件のいじめがあった)。いじめ発生時の学校、教育委員会、地方公共団体等の対応を明確にしたこの法律制定の意義は大きいと思う。ただ、この法律により、いじめ発生が防止されるわけではない。それは、社会のあり方、家庭教育のあり方にも関わる大きなテーマだ。

〔9月6日〕

- ①平成25年度全国学力テストの結果について

富山県は、小・中ともに、全国の平均正答率を上回っているものの全国平均正答率との差は縮む。また、順位も相対的に低下した。小6の国語Aで19位等3科目で10番台、中3の数学Bではじめて1桁台を逃す等。一方で、全国平均と比較し、勉強時間が短く、ゲーム時

全国学力・学習状況調査結果

教科区分	小学校 6年					中学校 3年					
	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	国語A	国語B	数学A	数学B	合計	
2009年度 (H21) 平均正答率 (%)	富山県 (公立)	72.4	51.7	80.5	56.8	261.4	81.8	80.1	68.4	63.6	293.9
	全国 (公立)	69.9	50.5	78.7	54.8	253.9	77.0	74.5	62.7	56.9	271.1
	全国との差	2.5	1.2	1.8	2.0	7.5	4.8	5.6	5.7	6.7	22.8
2013年度 (H25) 平均正答率 (%)	富山県 (公立)	63.8	50.7	79.7	60.4	254.6	78.9	70.4	65.8	43.9	259.0
	全国 (公立)	62.7	49.4	77.2	58.4	247.7	76.4	67.4	63.7	41.5	249.0
	全国との差	1.1	1.3	2.5	2.0	6.9	2.5	3.0	2.1	2.4	10.0

※A: 主として「知識」に関する問題 B: 主として「活用」に関する問題

資料: 全国学力・学習状況調査 (文部科学省)

間が長い実態が明らかになった。

【質問のポイント】

これまで「教育県・富山」を標榜し実践してきた事から残念な結果だ。冷静に分析し、手を打つ事が大事。分析の1つに、市町村間、学校間の格差があるのか調べる必要があると思う。また、点数を上げる事にこだわり、県独自の学力テストを多く導入する事は疑問だ。生活習慣の問題については、幅広い検討が必要であると思う。

学力テストの結果に一喜一憂するのはどうか？との意見もあるが、確かな学力を身につける事は、子どもの可能性を引き出す、という教育目標達成の鍵である。再び、富山県が上位に入る事を願う。

質問及び答弁の詳細は、富山県議会のHPをご覧ください。

新川地域の諸課題についての取組み

(7月19日) 国交省富山河川国道事務所を朝日町長、議長と共に訪問し、氏家所長他に、1) 国道8号線の城山トンネル、横尾トンネルにおける緊急時の避難通路確保や自転車・歩行者の安全通行のための対策(トンネル拡幅等)について、2) 小川橋北側の自転車歩行者橋の整備について要請活動を行った。

又、同日午後から、新川2市2町に共通する諸課題を協議する次の4つの会議が開催された。①魚津・朝日間湾岸道路建設促進期成同盟会総会、②日本海・関東首都圏連絡道路建設構想推進会議総会、③下新川海岸整備事業促進議員連盟総会、④新川地域推進協議会総会。この内、②の会議で、私は、県東部地域(富山市から朝日町まで)が一体となった「北アルプス横断道路建設構想推進会議」(仮称)の設置の必要性を述べた。又、④の会議(2市2町の首長、議長、県議の14人で構



成し、私が会長を務めている)では、並行在来線の利便性、地域医療の充実、空き家対策等について活発な意見が出され、9月2日、石井知事等に提言・要請活動を行うことを決めた。

(7月22日) 県東部地域産業活性化議員協議会は、国交省北陸地方整備局(新潟市)に行き、辻道路部長他に要請活動・意見交換を行った。その概要は、



【1】国道8号線…魚津・滑川間の4車線化、入善黒部バイパス、入善現道拡幅、自歩道整備等の継続中の事業は計画通りに行く。また、小川橋北側の自歩道橋の整備並びに横尾・城山トンネルの拡幅等の安全対策の推進については、まず現況をしっかりと調査する。

【2】北アルプス横断道路構想…気運の醸成、長野県とのコンセプトの共有、経済界の合意形成が必要である。

安倍首相が参議院選挙で信任された翌日の要請活動となった。安倍首相の進める成長戦略の推進と国土強靱化のために、これらの基幹的道路整備の必要性と今後の強力な取組み方針をお互いに共有する日となった。

(7月25日)「新幹線・総合交通対策特別委員会」が開催された。私は、並行在来線に関し質問した。

【1】並行在来線泊駅から金沢方面の快速列車の運行計画について。

答: 特急「おはようエクスプレス」の代替として快速列車を1往復運行する。これに加えて快速列車を運行するかは引き続き検討する。

【2】並行在来線黒部駅止まりのダイヤを泊駅まで延伸する事は、どうしても難しいのか。

答: 黒部駅から泊駅まで5往復の延伸による、3セク会社の経費等に与える影響は、貨物線路使用料の減収で年1,800万円程度、運転士の人件費や動力費等の運行経費で年1,700万円程度の増加、合わせて、年3,500万

円余りの負担増となる。

これを、利用者の増加で賄う事は極めて難しく、延伸は困難との回答に対し、利便性の向上の観点から引き続きの検討を要請した。

(9月2日) 朝日町、入善町、黒部市、魚津市の首長、議会議長、県議の14人で構成する、新川地域推進協議会(会長：鹿熊)は、新川地域に共通する諸課題、28項目について、知事をはじめ関係部局長に要望活動を行った。その中の特に重要な項目は次の4項目である。

1) 並行在来線の利用促進

①駅舎の老朽箇所の修繕と新型車両521系に対応したJR西日本の責任による駅舎の改修、②快速列車の増発と県境を跨ぐ利用者の利便性の確保、③黒部宇奈月温泉駅に係る2次交通の整備支援、等

2) 新幹線黒部宇奈月温泉駅の周辺整備事業の財政支援とアクセス道路の整備促進

3) 地域医療体制の充実

①医師・看護師の確保、②救急医療体制の確立、③病院の増改築事業への支援

4) 老朽空き家対策の推進

①県の「空き家の適正管理に関するガイドライン」を実効性のある内容で早期に策定、②抜本的な法整備と財政措置を国に強く働き掛ける事、等

医療・福祉分野に関する取組み

(6月12日) 自民党議員会は、2月から検討を重ねてきた、議員提案の「富山県歯と口腔の健康づくり推進条例(素案)」を公表し、県民のパブリックコメントを開始すると共に、石井知事に、同条例案に基づく施策の積極的な推進について要望した。

この条例が成立すれば、先に成立した「富山県がん対策推進条例」と共に、富山県が目指す、「健康先進県戦略」を推進する、重要な柱となる条例と言える。

また、条例化の一番の狙いは、歯科保健医療サービスを提供する、医療・介護関係者、教育・保育関係者、事業者等と県、市町村が一体となって連携し、総合的に、歯と口腔ケアによる県民の健康づくりに取り組む体制を整備する



事だ。

本条例案は、9月県議会に提案され、9月30日に成立した。

(8月19日) 私が会長を務める、自民党医療問

題調査会は、富山大学附属病院総合診療部の山城清二教授を招き、「地域包括ケアシステム」について勉強した。主な事項として、



1) 富大は、文科省の支援を得て、この10月から5年計画で、南砺市をモデルに進めてきた地域医療活動を県全体に広めるため、「総合診療医」育成に取り組む。

2) 地域包括ケアシステムのポイントは、①医療との連携強化②介護サービスの充実強化③予防の推進④多様な生活支援サービスの確保・権利擁護⑤バリアフリーの住まいの整備、これらが継続的に行われる事。

3) 南砺の地域医療を守り育てる会の立上げ=地域住民参加型の地域医療システムの構築

ところで、政府の社会保障制度改革国民会議が8月5日に最終報告書をまとめたが、その柱の1つが、「医療・介護の構造改革」である。その内容は、①高齢化の進展の中で、在宅につなぐ『急性期後』を担う病院の必要性、②病院・病床の機能再編を進め、在宅医療・介護までをつなげる「地域完結型」医療への転換、③都道府県が再編を主導し、病院をグループ化する、等。今回の勉強会は、奇しくも、この最終報告書を具体化するモデル的取組みを紹介したものとなった。



(9月2日) 自民党医療問題調査会は富山県医師会(会長：馬瀬大助氏)の役員と意見交換会を行った。この意見交換会

は、医療の最前線で活躍しておられる医師の皆さんから生の声をお聴きする機会であり、大変に勉強になる。今回、次の4つの事項が主な内容となった。

1) 子育て応援券を「B型肝炎ワクチン」接種に対し利用できるようにすることについて

【検討のポイント】①現状の負担は、5,000円×3回、②国における定期接種化の検討状況

2) 医師会立看護学校への補助金等拡充について

【検討のポイント】①医師会立と公立の看護学校の授業料の格差は、3倍から4倍、②医師会立看護学校での看護師養成の全体に占めるシェア(必要性)、等

3) 富山大学医学部特別枠の対象診療科に外科を加えることについて

【検討のポイント】①県内公的病院の医師不足の現状と外科医不足の将来見通し

4) TPP交渉の医療分野に関する医師会の考え方
——当調査会は、これらの課題も含め更に検討を重ね、11月頃、知事に要望・提言を行う予定でいる。

農林水産分野に関する取組み

〔8月9日〕自民党農業問題調査会が開催され、富山県農業法人協会・富山県企業稲作経営者協会の皆さんと意見交換を行った。皆さんは専門の農業者であり、確たる経営理念や富山県農業に対する展望をお持ちであり、今回も活発な意見が出た。特に、富山県独自の農業政策を打ち出すべきとの意見が強くあった。



- ①生産調整に対する意見として、これ以上は限界であり、戦略的に、加工用米等の生産に取り組むべき、との意見があった。
- ②全県民農作業チャレンジデーの創設や県産農水産物を食べる日の創設の提言があった。
- ③園芸生産拡大は、農地の汎用化とか大型水田の活用とい

う考えではなく、畑地の確保こそ大事との意見があった。

④農地中間管理機構について、その主体と経費、受け皿人材の確保、利用目的に沿った基盤整備等の論点が出た。

当調査会は、これらの意見を基に、現地視察も行い、しっかりとした政策提言をしていかねばならない。

〔8月20日〕自民党県連に設置した「富山県農林水産業・地域の活力創造本部」は、党本部から、自民党農林水産業・地域の活力創造本部長代理の衆議院議員 中谷元氏を招き、農林水産関係団体の役員との意見交換会、並びに講演会を開催した。私は、この本部の顧問として出席した。意見交換会の中で出た主な発言として、1) 日本型直接支払制度の法制化と現行水準以上の予算確保、2) 適地適作の視点でコメ政策の柔軟性が必要、3) 農業農村整備事業補助率の見直し(農家負担軽減対策)が必要、等。今後は、この本部において更に検討を加え、党本部や農林水産省、また県に対し、しっかりとした提言を行う予定でいる。



トピックス

○ふるさとの力・ふるさとの宝

各地で、ふるさとの伝統催事や地域の特徴を活かした催しが行われている。人口減少に直面する中で、行事を継続していく事は苦勞が多い事と思う。しかし、その原動力は、「地域に元気を」「ふるさとの良さの再発見を」「ふるさとの誇りを」、といった共通の願いや思いであろう。そして、このような地域挙げての触れ合いが、災害発生時等に、地域の力になるのだと思う。また、他地区や他市町からの交流人口増になる事は言うまでもない。



写真は、4月28日に朝日町の境地区で開催された「第10回境関所まつり」の一場面。境の関所は、1614年に、加賀藩の最東部の関所としてこの地に開設されて、来年で400年を迎える。それに向け関所の一部復元事業が始まっている。来年度は新幹線開業年度でもあり、境地区が脚光を浴びる事は間違いない。ふるさとは、どこも幾つもの宝を持っている。

○みな穂あいさい広場がオープン

5月23日、みな穂農業協同組合の農産物販売加工施設「みな穂あいさい広場」がオープンし、竣工式に出席した。開業時刻前から、大勢の皆さんが並んでおられる行列を見て、この施設への期待感が伝わってきた。新鮮、安心、オリジナル商品等が魅力なのであろう。折しも、安倍首相は、農業を成長産業にすべく本腰を入れ始めた。これを追い風にして、農業者も消費者も喜び、町内外の人々が交流する施設として発展して欲しい。そして、付加価値が上がり、汗を流した農家の皆さんがきちんと潤う事を心から願うオープンの日であった。



○第1回寺子屋カレッジ開催

6月23日、第1回寺子屋カレッジを開催した。加藤敏久先生（元県高等学校長会会長、魚津高校長、中部高校長等歴任、朝日町出身）に講師をお願いし、「教育雑感」と題して、お話しして頂いた。会場は朝日町の常光寺で、約40人の参加があった。

加藤先生は、①教育とは、人が人を育てる営みである、②社会（人間関係）の中で人は育つ、この2点を主要テーマにして、先生の小学生時代の体験等を交え、先生の人間力の大切さ、生徒指導について、進路指導について、いじめ・不登校問題について、核心に迫る話をされた。特に、「心が動かなければ、人（生徒）は動かない」「権力でなく権威で指導する」「いじめ・不登校は社会全体（大人）の問題であり、根っこを抑えなければ解決しない」等は、教育の奥深さを思った。この寺子屋カレッジは、今後も続けていきたい。



○韓国江原道議会の訪問

8月7日、韓国江原道議会から李永徳（イ・ヨンドク）団長他3人の議員が富山県議会を訪問され、私は、富山県日韓友好議員連盟会長として、杉本議長と共に、訪問をお受けし意見交換を行った。

一行は、6日に来県し、イタイイタイ病資料館や高志の国文学館等を視察した後、県議会に来られた。4人とも、富山県は初訪問とのこと。意見交換は、環境問題、中学生の体験教育、2018年江原道平昌開催の冬季オリンピック、産業面、日本海クルーズ等々多方面に及んだ。そして、地方自治体や民間相互の交流を積み重ねていくことが両国の友好の一層の深まりにつながることをお互いに確認した。

ところで、江原道議会の構成は47人、内、普通選挙で38人、教育議員枠5人、比例議員枠4人という仕組みであることを初めて知った。



○入善町後援会で視察研修と親睦の旅

8月31日、9月1日、入善町後援会の皆さんと愛知県に行き、日本のものづくり産業とその技術を学ぶ良き機会を得た。もちろん、お互いの親睦を深める楽しい旅であった。

見学先—キリンビアパーク名古屋工場、トヨタ会館、J R東海リニア・鉄道館等

【高校再編の議論が再開】

まず前期再編計画の評価をした後に、平成26年度から後期再編計画の議論がスタートします。「全ての学校を、1学年4から8学級とすることを目指し、一定の学校規模を確保するとともに、新しいタイプの高校を設置するなど、学習活動や学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨することができる学習環境をつくることを目的とする」という県立高校の再編目的は、後期再編計画の議論においても変わらないと思います。

そういう中で、大切な高校生の教育環境、町づくり、新たな県民ニーズの模索等々、冷静かつ熱い議論が必要と思います。

ゆうせいかい 熊正会からお知らせ

熊正会は鹿熊正一県議を資金面で支援する資金管理団体です。鹿熊県議の政治活動並びに後援会活動が一層充実し活発になりますよう皆様の温かいご支援を心からお願い申し上げます。年会費は、個人、法人とも一口5,000円からです。

お問い合わせ等は鹿熊正一事務所までご連絡下さい。

まさかず かくま正一通信 (No.23)

発行日 平成25年10月

発行者 熊正会・自由民主党富山県議会議員会

事務所 〒939-0742 下新川郡朝日町沼保1173-1 TEL 0765-82-1333 FAX 0765-82-2113

正一メールアドレス masakazu@kakuma.net

©「かくま正一通信」は資源保護のため再生紙を使用しています。